

「経営品質」っていったい何ですか

総務常任委員会の視察(4日~6日)で勉強したのですが

4日から6日まで総務常任委員会の視察でした。4日は三重県松阪市、5日は神戸市、そして最終日6日は広島県廿日市市と回ってきました。

今回の視察の目的は、「行政経営品質」という難しい問題を学ぶことですが、その「経営品質」なるもの、「いま一つよく解らない」というのが実感です。説明で共通していたのは、「導入したら職員の意識が変わった」ということです。また「経営品質の導入」と言い方からすると、「制度の導入」と同じ使い方ですから、「経営品質」というのは「制度」そのものなのかもしれません。

松阪市で聞いてみました

初日に松阪市でいただいた資料に、「経営品質とは・・・」と書かれています。説明を受けた後、一番最初に手を挙げ、次のように聞いてみました。

「経営全般に関してお客様の要望に応じていく」「自分の勝手な判断でなく、お客様の価値観で」と書かれています。「お客様」とは、市民のことだと思えますが、市民の行政に対する要望とか、市民の行

政に対する価値観というものを、どう把握し捉えていますか。「こ」がきちつとしないと、「自分勝手な判断」になってしまふと思うのですが。

もう一つは、「経営品質」ということについてです。私は以前、民間の製造会社にいましたから、「製品の品質」ということならばすぐ解ります。しかしわざわざ「経営品質」といっていますから「製品の品質」とは別のことでしょう。言葉からすると、「製品をつくっている会社、その会社の経営の品質」ということになりませんが、よく理解できません。小売店などの二次産業になりますと、さらに「経営の品質」というのは、解らなくなります。その上さらに行政になったら、「品質」も解らないし、ましてや「行政経営品質」などというものはまったく理解できなくなります。

説明してくれた職員は、一生懸命でしたが、



神戸市で(5日)

結局のところ「経営品質」なるものは釈然としないものでした。

党の立場と一致している

「行政経営品質を導入して、行政の何がどう変わったのか」の問いに、「職員の意識が、『してやる』から『住民のために仕事をしている』と変わりました」という答えでした。あわせて、「事業評価をどうするかが大事です」ともいっていました。

日本共産党の地方議員はどこでも行政に対して、「住民の立場に立つて」とか、「住民の目線で」と主張しています。地方政治の原点だからです。このことを行政自身が内部から実践しようというのが、「経営品質」ということのようにです。行政が本気で取り組むとしたらわれわれの主張が実ったということですが、他方、うかつかしらね

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

市政レポート

2006年10月15日 121
発行 杉本敏宏事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832